



熊本地震から 10 年 南阿蘇を想う作家 4 人展

今年には熊本地震から 10 年目の節目の年です。
大自然の威力、多くの感謝、これからへと繋ぐ経験や想い。
南阿蘇をこよなく愛し地震の体験を経た 4 人が、
この 10 年を想う作品として展示いたします。

2026 年 4/11(土) ~ 4/22(水) 観覧無料

会場：白水郷アートプレイス 小展示室 〒869-1504 南阿蘇村一関 1247

お電話：0967-65-8331 木曜・金曜定休 10:00~17:00

あれから . . .



〈展示作家〉



Kuniko Oka

岡くに子 (キルト布絵)

1999年9月東京より南阿蘇に移住。
布を使っの作品歴49年、教室主宰歴36年、雑誌等の掲載。キルト関係での入賞、入選6回。個展・グループ展など多数。2021年、作品集「雫」を出版。

今回の展示に寄せて

2016年『輝こう阿蘇』『支え合う輪・和・話』の2作を創作
2026年『南阿蘇へのまなざし』の作品創作
2024年に夫が他界。故人も敬愛した正教寺の納骨堂に納めました。南阿蘇をこよなく愛する私はこの地で生を全うする思いで、日本の布などを使ってコツコツと創作する日々を送っています。
地震後、私にできることは何かを考えた末の行動が、被災した業者・農家の製品・農作物を関東地区の友人などに買ってもらうことでした。
～平和を願いつつ創作する～



Nobuhiro Kosai

小佐井 順大 (インスタレーション)

熊本市出身 2000年から南阿蘇に定住。
現在高森高校マンガ学科教諭
東京藝術大学大学院卒
アートポアール展、辺の会展など出展。

今回の展示に寄せて

あの時は、我が家に避難してきた方との共同生活を送りました。私は2時間半かけて南関町まで通勤していましたので、毎朝、交通機関が遮断され村から大牟田市まで、出られなくなった人や避難先の人へベットを送り届け、帰りはコインランドリーやホームセンターで、ビニールシートや電池を買って帰りました。学生の我が子たちも新学期のクラスで名前も覚えている矢先に、学校が休校、避難所となり、多くの生徒が転校していきました。その時の思った「不確かな生活と営み」を形にしたものです。



Kazuhiro Nakano

中尾 和弘 (油絵)

1999年～熊本県美術家連盟会員
2008年、熊本市より南阿蘇に移住。
2014年～東光会会員
展覧会（日展、東光展）に向けた制作の傍ら、南阿蘇のアトリエ、熊本市中央公民館、阿蘇市、大津町で絵画教室の指導を行う。

今回の展示に寄せて

南阿蘇に移住して以来、私は阿蘇をテーマに制作を続けています。熊本地震では、山肌に痛々しい爪跡が残りましたが、阿蘇は今も変わらぬ美しさを見せてくれます。春、野焼きのあとの芽吹き、夏の多様な緑、秋の澄んだ空気。そして冬の、厳しくも凛とした景色。四季折々に姿を変える阿蘇の風景は、私にとって特別な存在です。震災から十年、阿蘇とともに生きてきた時間を、これからも大切に積み重ねていきたいと思っています。



Kaori Kitazato

北里 かおり (陶造形)

南阿蘇村出身 九州造形短期大学
卒業後、窯業・建築関連業などを経て1998年～南阿蘇村に開窯。同時に地域づくり団体やアートイベントの発足・事務局。作品づくりのテーマ旅を続けながら「生命の源」の種・植物をモチーフに制作。
熊本地震後は、被災の為村内移住。
村の被災集落支援として、個人再建や集落再生・活性化事業・情報発信を担当。
4/25.26開催の「南阿蘇・黒川ウォーク」10年企画主催。

今回の展示に寄せて

「まずは生きていようね」仮設住宅や集落をまわりながら住民の皆さんとお互いにかけていた言葉。危うさの中のかすかな希望が、いま多くのお力添えにより復興を経たこの村の姿であることを胸に。

記念コンサート

4/19 ① 15:00～16:00 入場無料
樫原秀彦フラメンコギターソロ

※特別出演 赤坂幸紀（篠笛）
オリジナル曲『南阿蘇』を演奏します



白水郷アートプレイス
MinamiASO_style

熊本県阿蘇郡南阿蘇村一関 1247
お電話：0967-65-8331

